
板橋区史跡公園(仮称)

基本構想

平成29年8月

板 橋 区

目次

はじめに	1
第1章 板橋区史跡公園(仮称)基本構想の策定にあたって	
1. 構想の背景と目的	2
2. 構想の位置づけ.....	3
3. 史跡公園整備予定地の立地.....	4
4. 史跡公園整備予定地周辺の関連史跡.....	5
第2章 整備の基本的な考え方	
1. 前提となる考え方	6
2. 基本コンセプト	7
3. 基本方針	8
4. 整備予定地の特性.....	9-13
第3章 史跡公園の将来像	
1. 整備の方向性.....	14
2. 整備イメージ.....	15
付属資料	
板橋区史跡公園(仮称) 整備スケジュール.....	16
板橋区史跡公園(仮称) 来場者数の想定について.....	17
板橋区史跡公園(仮称)整備構想委員会 委員名簿.....	18-19
板橋区史跡公園(仮称)整備構想委員会 開催記録.....	20

はじめに

板橋区加賀に広がる板橋火薬製造所(昭和20年時には東京第二陸軍造兵廠板橋製造所)は、明治9(1876)年に旧加賀藩江戸下屋敷の跡地に発足しています。板橋火薬製造所は官営工場として日本最古の部類に属する工場であることから、板橋区は当地を「工都」板橋における工業のさきがけとして、また区の産業の原点として高く評価しております。

平成26年8月、火薬製造所・火薬研究所時代の貴重な建造物や遺構が残っていた公益財団法人野口研究所の開発計画と、国立研究開発法人理化学研究所の旧板橋分所の移転計画が決定されたことを受け、区は、旧東京第二陸軍造兵廠内火薬研究所等近代化遺産群調査団を急遽結成し、開発前の段階での学術調査を実施し、貴重なデータを収集して、これに考察を加えた研究報告書を作成しています。

平成28年には、区は上記の調査結果を踏まえ、当地を「史跡」・「近代化遺産」として評価を行うとともに、公有化をすすめ、都内ではじめての近代史跡、近代化遺産を中心とする「史跡公園」として保存活用を行うことを決定しています。あわせて、当地を国の史跡として指定が受けられるよう文部科学省に具申を行っています。

このような状況下、板橋火薬製造所跡地に残された明治期以降の施設・遺構を保存・活用し、それらを区民共通の財産と位置づけながら、公園整備の具体的な構想等を策定するため板橋区史跡公園(仮称)整備構想委員会を設置しました。これまでに4回の委員会と特定の課題を専門的に調査・検討するための専門部会を4回開催し、議論を重ねていただきました。

このたび、平成29年8月4日に、田原幸夫板橋区史跡公園(仮称)整備構想委員会委員長(京都工芸繊維大学大学院特任教授)から、板橋区史跡公園(仮称)基本構想案が提言されたことを受け、板橋区はその内容を尊重し、十分に検討しながら史跡公園の整備を進めていくこととしました。

今後は、本構想に掲げる「板橋の歴史・文化・産業を体感し、多様な人々が憩い、語らう史跡公園」というコンセプトのもとで、史跡公園の整備を推進していきますので、皆様の更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成29年8月 板橋区長

坂本 健

第1章 板橋区史跡公園(仮称)基本構想の策定にあたって

1. 構想の背景と目的

板橋区の南東部に位置する加賀地域一帯は、江戸時代には中山道板橋宿に接して加賀藩下屋敷が置かれ、現在も、地名をはじめ学校や橋の名称に「金沢」や「加賀」といった名を残している地域です。また、明治時代以降、板橋火薬製造所にはじまる陸軍の兵器廠が形成され、板橋区のものづくりの中心となった場所のひとつです。

兵器廠は明治から昭和にかけて度重なる組織変更と用地拡大が行なわれ、昭和15(1940)年には陸軍兵器廠令改正により、北区側が東京第一、板橋区側が東京第二陸軍造兵廠として分離改変されました。終戦後は陸軍解体に伴い、広大な敷地が研究所や大学等の文教地区や中小の工場用地、住宅地となりました。こうした流れの中で昭和21年1月には、東京第二陸軍造兵廠火薬研究所があった地に現在の公益財団法人野口研究所が入所し、同年8月には石神井川左岸の建物に、理化学研究所「板橋分室(後の「板橋分所」)」が開設され、宇宙線研究グループを率いた仁科芳雄博士、ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹、朝永振一郎両博士をはじめ、多くの研究者がこの地で研究に従事しました。さらに周辺には戦前戦中期に進出し形成された多数の軍需工場群、戦後は平和産業として発展した光学産業が輸出企業として国の経済発展に貢献するなど、都内でも有数のものづくり拠点として発展を遂げました。

板橋区は、加賀一丁目に所在する「加賀公園」「旧野口研究所」「旧理化学研究所板橋分所」一帯を近代化・産業遺産として、その歴史的な背景や重要な文化財としての価値を認め、国の史跡指定をめざすとともに、史跡公園として整備を行うこととしました。

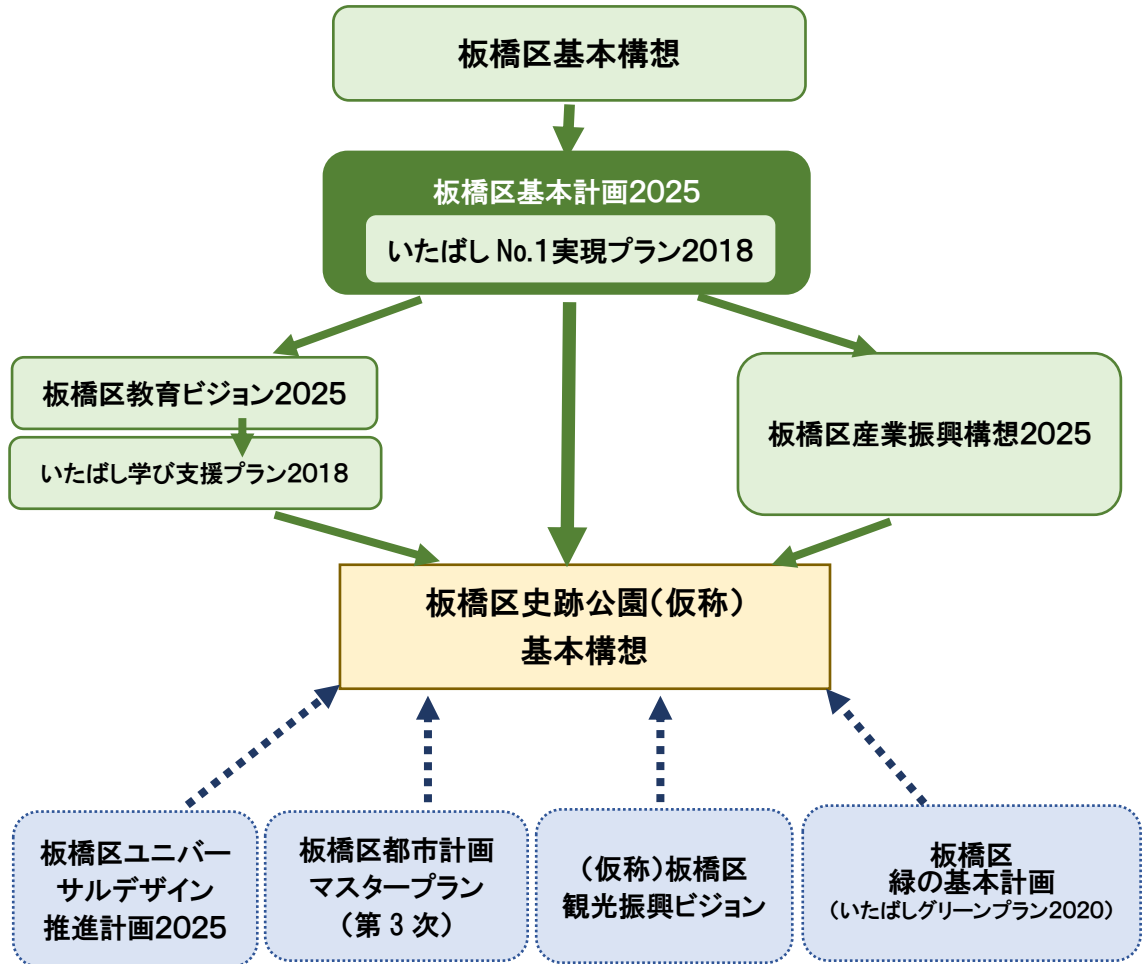
公園整備予定地には「江戸期の加賀藩下屋敷の痕跡である築山(加賀公園)」、「明治期から昭和期にかけての史跡や建造物(旧野口研究所・旧理化学研究所板橋分所)」、「近代産業の礎となった研究施設(旧理化学研究所板橋分所)」、「自然が調和した桜並木と遊歩道(石神井川)」があり、周辺には、中山道の宿場町として栄えた板橋宿や隣接する北区には東京第一陸軍造兵廠の遺構などが点在しています。これらの歴史的に価値のある史跡や建造物をはじめとした遺構や石神井川周辺の自然環境を広域的にとらえ、産業遺産の保存と活用を第一に考えながらも、自然と調和した区民に“愛される”・“再び訪れたいくなる”史跡公園として整備し、ひいては観光振興や地域の発展につなげていくことをめざしていきます。



明治33年山科宮菊麿王撮影 板橋火薬製造所遠景
学習院大学史料館提供

2. 構想の位置づけ

本構想は、「板橋区基本構想」、「板橋区基本計画2025」、「いたばし No.1 実現プラン 2018」をはじめ、「板橋区教育ビジョン2025」、「いたばし学び支援プラン2018」、「板橋区産業振興構想2025」、「板橋区緑の基本計画(いたばしグリーンプラン2020)」などの各計画との整合性を確保しつつ、史跡公園としての他にはない特性、板橋としての独自性を提示しながら、基本的な考え方と方向性を定めていきます。



3. 史跡公園整備予定地の立地

史跡公園整備予定地は、荒川沿いの沖積低地と洪積台地「武蔵野台地」からなる板橋区の東南部に位置しており、中山道からゆるやかな下りとなっている地形で、その中央に流れる石神井川は北区滝野川・王子の音無溪谷を経て隅田川へと合流します。

周辺地域には、金沢小学校、加賀小学校、板橋第一小学校、板橋第二小学校、板橋第四小学校、板橋第三中学校、板橋第五中学校、帝京中学校・帝京高等学校・帝京大学、北園高等学校、東京家政大学附属女子中学校・高等学校・東京家政大学があり教育施設が多く設置されていることが特徴です。また、かつて工場などがあった土地には、平成10年頃から平成28年にかけて大型集合住宅が約 2,300 戸建設されており、子どもたちの数が増加してきた地域でもあります。

昭和48年から平成21年まで加賀一丁目8番には国立極地研究所が立地しており、周辺には、現在も特別養護老人ホームや病院、東板橋体育館、東板橋図書館、こども動物園などの公共施設が比較的多く設置されている地域です。

史跡公園整備予定地への公共交通機関からのアクセスとしては、都営三田線の新板橋駅・板橋区役所前駅やJR埼京線の板橋駅・十条駅などを利用すると徒歩 10 分から 15 分程度の距離となります。また、都営三田線の板橋本町駅や東武東上線下板橋駅・大山駅からは 15 分から 20 分程度の距離にあります。

史跡公園は、加賀藩江戸下屋敷の一部であり、その外周には旧中山道が走っています。旧中山道板橋宿は、JR 板橋駅付近から環七通り付近までの範囲であり、ほぼ国道17号線と都営三田線のルートに並行しています。その長さは約 2.4 キロに及び、現在は「板橋駅前本通り商店街」、「板橋宿不動通り商店街」、「仲宿商店街」、「坂町商店街」の商店街が続き、賑わいを見せています。

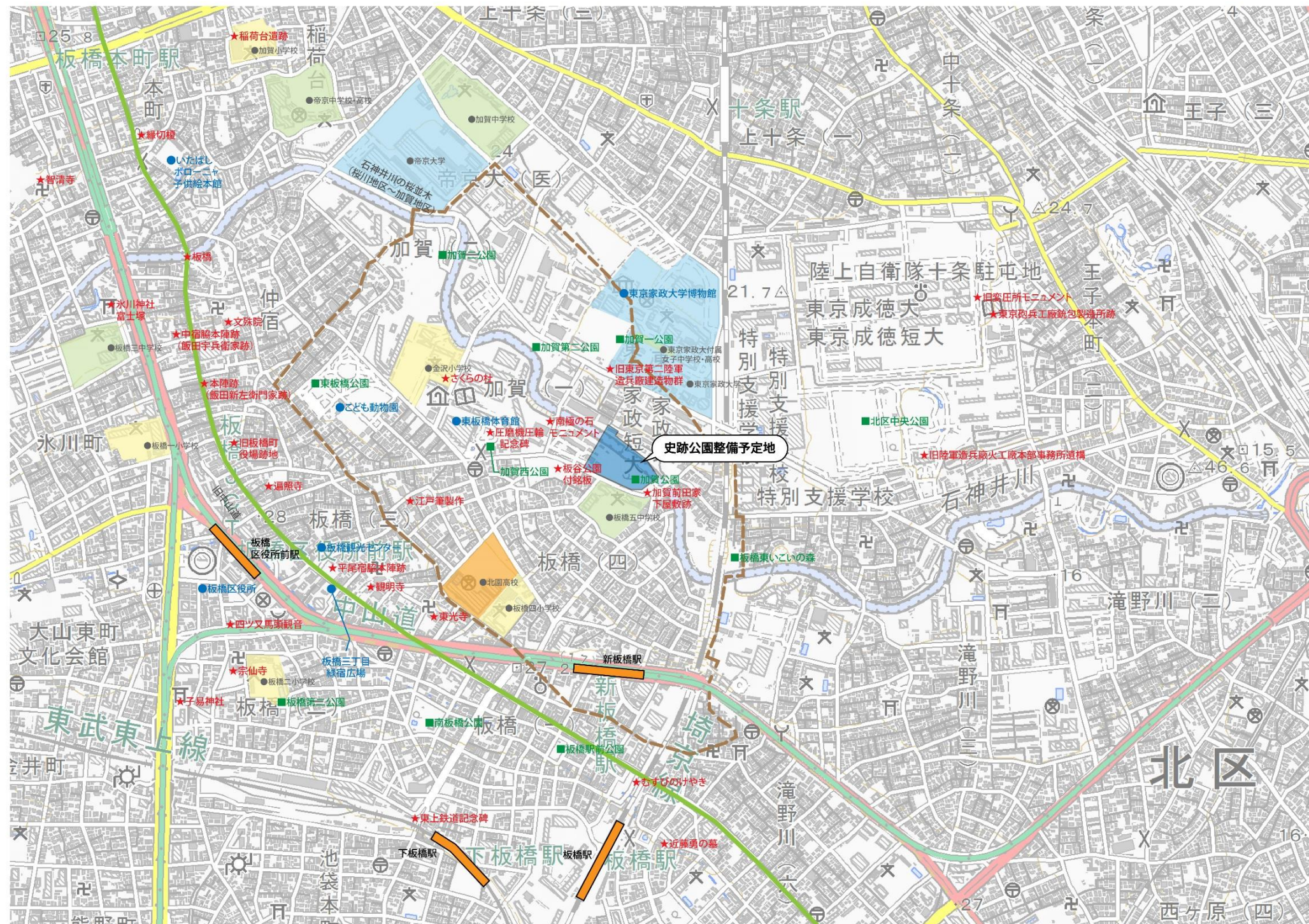
また、旧中山道の平尾の追分で分岐している旧川越街道も、国道254号線に向かって延びており、平尾から東武東上線大山駅までは「板橋四ッ又商店街」と「遊座大山商店街」になっています。この通りは、大山駅を利用して板橋区役所や文化会館へと向かうルートとしても区民に親しまれ、利用されています。さらに大山駅から国道254号線までのエリアは、560 メートルのアーケードをもつ「ハッピーロード大山商店街」であり、200 店舗以上が並ぶ区内最大のショッピング街のひとつとなっています。

このように、JR 板橋駅や都営三田線の板橋区役所前駅・板橋本町駅、東武東上線の大山駅を基点とする史跡公園までのアクセスルートには、旧中山道や旧川越街道といった、江戸時代以来の歴史的な街道や、近代化に伴い開設された王子新道があります。特に旧中山道と旧川越街道には、都内を代表する商店街が広がっており、賑わいをみせています。

そして、このような商店街の賑わいと、史跡公園周辺地の自然豊かな静寂感とのコントラストがこのエリア全体の大きな魅力になっているともいえます。今後はその歴史的環境や資源を十分に活かし、史跡公園と周辺部を連関させた整備を進めていく計画です。

4. 史跡公園整備予定地周辺の関連史跡

史跡公園整備予定地周辺には、中山道第一の宿場、板橋宿の「板橋宿本陣跡」や板橋の地名の由来であり板橋十景にも選ばれた「板橋」など、歴史を感じられる史跡が多く残っています。また、北区中央公園・中央図書館を中心に、大正8(1919)年頃に建設された東京砲兵工廠銃包製造所(旧陸上自衛隊十条駐屯地275号棟)など、陸軍造兵廠の遺構が数多く点在しています。史跡の保存・活用を重視しながら、中山道板橋宿や加賀藩下屋敷が置かれていた歴史的な価値も活かした情緒あふれる環境整備を一体的に進めていきます。



加賀藩下屋敷跡
 ※ 本図は国土地理院発行『電子地形図 25000』をベースに作成したものです。

第2章 整備の基本的な考え方

1. 前提となる考え方

近代化・産業遺産を保存・活用した 都内初となる史跡公園を整備します

都内初となる近代化・産業遺産の保存・活用をめざすことで、身近な文化財を通じて板橋の産業発展や地域の歴史、平和に対する学びの機会を提供し、併せて、ふるさと板橋を大切にする心を醸成します。

また、史跡公園を板橋の新たなシンボルとし魅力を発信していくことにより、「ものづくりの板橋」としてのブランド力のさらなる向上と定着を図っていきます。

前提1 近代化・産業遺産の保存・活用

明治時代から昭和初期にかけて形成された火薬製造所とその試験や保管、研究施設などの国内唯一の遺構を整備・保存し、板橋の歴史や文化を学ぶ場として活用することで、重要かつ先進的な産業遺産施設群として魅力を発信していくとともに次世代に継承していきます。

前提2 ふるさと板橋を愛する心の醸成

加賀地域に設置されていた旧東京第二陸軍造兵廠火薬研究所は、欧米の技術を導入しながら、日本の産業や科学技術の発展、近代化の一翼を担ってきました。また、江戸時代には加賀藩の下屋敷が置かれていた歴史的な価値と併せて、これらの史実を認識し学ぶことで地域を愛し、ふるさと板橋を大切にする心へとつなげていきます。

前提3 ブランド力の更なる向上

火薬製造所とその関連施設などを近代化・産業遺産として残し、史跡公園として整備・保存、活用していく取組は全国でも初の試みとなります。また、かつての都内有数の産業拠点は、現在の板橋区における様々な産業の集積として結実しており、これらの歴史や産業力を情報発信することで「ものづくりの板橋」としてのブランド力の更なる向上につなげていきます。

前提4 板橋の力の結集と新たなシンボルの創出

地域や産業界、商業界、観光や文化団体等の方々と意見交換を重ねながら魅力ある史跡公園の在り方を検討していきます。区民に“愛される”・“再び訪れたくなる”史跡公園となるよう板橋の魅力を新たなシンボルとして整備していきます。

2. 基本コンセプト

前提となる考え方を踏まえ、史跡公園整備の基本コンセプトを次の通り定めます。

板橋の歴史・文化・産業を体感し、多様な人々が憩い、語らう史跡公園

**～ここにしかない歴史を通じて、板橋の過去と現在を知り、未来へとつなげる～
～「ものづくりの板橋」としてのブランド力の向上・定着と新たな魅力の創出～**

明治時代から昭和初期にかけて、加賀地区に形成された近代的な火薬製造所と研究施設及び戦後日本の頭脳が集った理化学研究所等は、都内有数のものづくりの拠点として発展していったばかりでなく、日本の産業や科学技術の発展に寄与し、近代化に大きく貢献しました。また、史跡公園として整備するエリアの中央を流れる石神井川は、過去には交通路としての活用だけでなく火薬製造所の貴重な動力源として利用され、現在では川沿いの桜並木とともに四季が織りなす景観が多くの人々に憩いをもたらしています。

史跡公園を整備していくにあたっては、板橋区基本構想で掲げる将来像「未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち“板橋”」の実現に向けて、だれもが暮らしたくなる・暮らし続けたいとなるまちとするため、にぎわいの創出とともに、若年層から高齢者層まで、板橋区の誇りとしていつまでも愛され、再び訪れたいくなる史跡公園となることをめざしていきます。自然と調和した環境整備を基本に、今も残る遺構を実際に訪れ、見て、実感することを通して、板橋ならではの歴史や文化、産業の変遷、魅力と価値の理解へと導きます。さらに、ここで培われた様々な技術をふりかえるとともに、区内産業が手掛ける先端技術等の学びを通して、次代を担う子どもたちの郷土板橋を愛する心と夢を育み、「ものづくりの板橋」としてのブランド力の向上と定着、新たな魅力の創出へとつなげていきます。

3. 基本方針

史跡公園整備の基本コンセプトを踏まえ、3つの基本方針を次の通り定めます。

(1)区民をはじめ多様な人々が気軽に集い“憩う”

- ・ だれもが暮らし続けたいまちとして、都会の中での自然とのふれあいや憩いの提供、景観の形成・保存といった公園本来の機能の充実を図ります。
- ・ ユニバーサルデザインに基づいた公園内外の散策路の整備等により、多様な人々が集いやすい環境をつくり区民に愛され、再び訪れたい公園をめざします。
- ・ 史跡の保存・活用を重視しながら、中山道板橋宿や加賀藩下屋敷が置かれていた歴史的な価値も活かした情緒あふれる環境整備を一体的に進めていきます。

(2)日本の近代化の一翼を担った、板橋の歴史や文化を“学ぶ”

- ・ 近代化・産業遺産の歴史的背景を通じて、板橋が日本の産業や科学技術の発展を支え、近代化に貢献してきた軌跡を学ぶとともに郷土板橋を愛する心へとつなげていきます。
- ・ 火薬製造所と研究施設の遺構を通じて、子どもたちや若者世代が平和の大切さや科学技術の平和利用について考えるきっかけを提供します。
- ・ ワークショップや実験など、主体的な学びを促す体験の場を提供し、利用者の学習意欲を高めるとともに、次代を担う子どもたちの夢を育みます。

(3)板橋ならではの歴史を通じて、板橋の現在、そして未来を“創る”

- ・ これまであまり知られてこなかった区産業発祥の地としての歴史や先進性に光を当て、国内外に広く発信することで、板橋区のブランド力を高めます。
- ・ 区産業や科学技術の発展につながる体験の場・気づきの場を提供し、次代を担う人々に共感と夢を育む未来志向の創造の場をつくります。
- ・ 史跡公園を産業文化の新たな聖地と位置づけ、地域、商店街や民間企業、大学や研究機関などと連携し、まちづくりや産業振興に貢献します。

4. 整備予定地の特性

史跡公園整備予定地は、江戸時代から明治、昭和、現代へと歴史が積み重ねられてきたことにより、特色ある4つのエリアに分けられます。

A. 現・加賀公園エリア

現・加賀公園エリアは、江戸時代、江戸周辺で最大の大名屋敷であった加賀藩の下屋敷が置かれていました。

加賀藩下屋敷は、延宝7(1679)年に5代藩主前田綱紀が幕府から板橋宿平尾の土地の拝領をうけてから、数回の拡張を経て21万坪余りの広大な敷地となりました。当時は、鷹狩などの狩猟や近い関係の大名を招いた園遊会など、下屋敷は非日常的な空間として利用され、加賀藩の上屋敷や中屋敷にはない特別な機能を有していました。

また、下屋敷の内部には、石神井川の分水を利用した大きな池が設けられ、雄大な景観をもつ大名庭園が形成され、今もその遺構である築山が現存しており、当時の庭園の様子を偲ぶことができます。幕末期には屋敷内に存在していた水車を利用して大砲の鋳造も行われ、また、明治時代以降には、火薬製造所においてもその水力が利用されており、近代化に適した立地であることがうかがえます。

周辺地域には、現在も「金沢」・「加賀」などの地名が残っており、板橋区は、前田家の国元だった石川県金沢市と友好交流都市協定を結んでいます。近世の加賀藩下屋敷の面影とともに、金沢市との友好交流の歩みを感じることができます。

主な構成要素: 加賀藩下屋敷築山遺構・電気軌道跡・板橋区と金沢市との友好交流都市協定締結記念碑



「下屋敷御林大綱之絵図」文政7年、金沢市立玉川図書館近世史料館蔵



右上: 加賀公園全景、右下: 築山

B. 旧・火薬製造所エリア

旧・火薬製造所エリアは、明治初期から第二次世界大戦終戦まで、火薬の近代的製造・研究を行う一大拠点として機能していました。

このエリアは、石神井川の水利が利用できる点や、万が一爆発事故が発生しても被害を最小限に留めることができる谷底低地に位置する点など、工場に最適の条件であったことから、明治政府は、明治9(1876)年に陸軍の火薬製造所を設置しました。

日露戦争期の火薬製造の拡大に伴い、北区の王子や滝野川など石神井川流域一帯にも分工場が作られ、首都東京に巨大な工廠群が形成され、その後昭和21(1946)年、野口研究所が横浜から旧・火薬製造所エリアの建物に移転し、自然科学研究を展開していくことになります。

当エリアの特徴は、火薬製造所時代から使用されていた建物や施設が現存している点にあります。弾丸の速度などを近代的な技術で測定したコンクリート製構築物である弾道管や、弾道管に隣接した鉄筋コンクリート2階建モダニズム建築の燃焼実験室など、火薬製造所の発展過程や研究内容を今に伝える貴重な文化財が現存しており、これらを通して近代の科学産業の実態を垣間見ることができます。

主な構成要素：発射場・燃焼実験室・火薬保管庫・爆薬製造実験室・試験室・土塁・電気軌道跡



燃焼実験室・弾道管・試験室



弾道管と試験室

C. 旧・理化学研究所エリア

旧・理化学研究所エリアは、現・加賀公園エリア、旧・火薬製造所エリアと石神井川を挟んで北対岸に位置しています。

このエリアには、明治40(1907)年竣工とされるレンガ壁体の建物を中心に、現在 5 棟の建物が現存しています。後年の改変も認められますが、建物には爆薬の取り扱いに適した構造も認められ、文化財的な価値を有しています。

理化学研究所は、大正6(1917)年に財団法人として文京区駒込に発足した、物理学、工学、化学、計算科学、生物学、医科学など自然科学の総合研究所です。昭和20(1945)年、戦災により駒込の研究所は建物や設備の大半が失われ、当エリアの建物に入所することになりました。ここでは終戦直後に仁科芳雄博士が研究室を構え、宇宙線研究を展開しました。後年ノーベル物理学賞を受賞することとなる湯川秀樹・朝永振一郎博士も、仁科博士のもとで研究を行い、後にここで研究室を構えました。特に湯川博士の研究室は、今も現存しています。平成27(2015)年に閉鎖されるまでの70年間、国内の科学研究の拠点として利用されました。また「スーパーコンピューター」の研究の立ち上げも行われていました。なお現存する建物には湯川博士が使用した研究室も残っています。

戦前、陸軍の要請により周辺地域には光学兵器を製造する民間工場が数多く設置されました。戦後これらの工業は、平和産業に生まれ変わり、「ものづくりの板橋」を形作る原動力になっています。

主な構成要素：物理試験室・爆薬理学試験室・電気軌道跡(明治時代の建造物)



物理試験室



旧理化研究所内部

D. 石神井川エリア

石神井川エリアは、現・加賀公園エリアから、旧・火薬製造所エリア及び旧・理化学研究所エリアへと続く史跡の軸として形成されています。

石神井川は小平市を水源に、西東京市、練馬区、板橋区を經由して、北区で隅田川に流入する一級河川です。特に下頭橋から北区の飛鳥山公園までの流域には、1,000 本以上の桜が植樹されている区内を代表する桜の名所で、板橋十景に選定されており、春になるとたくさんの観光客でにぎわっています。

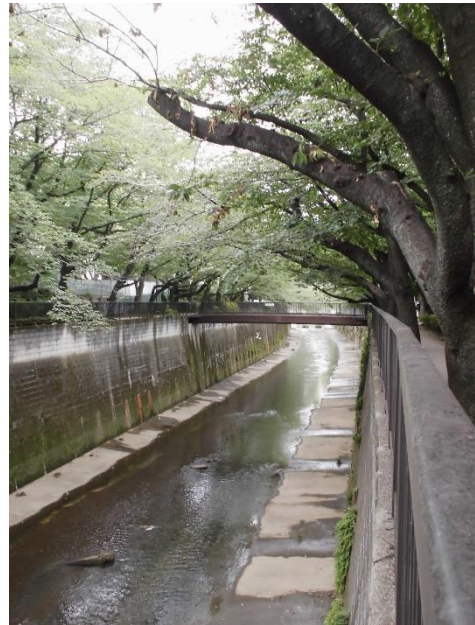
また、江戸時代、石神井川は加賀藩下屋敷の大名庭園へ流れ込み、分水を利用した広大な池が作られ、近代になると石神井川の水利は火薬製造に利用されました。

このように、江戸時代から現代に至るまで重要な意味を持ち続けており、自然景観と調和した憩いの場として整備していきます。

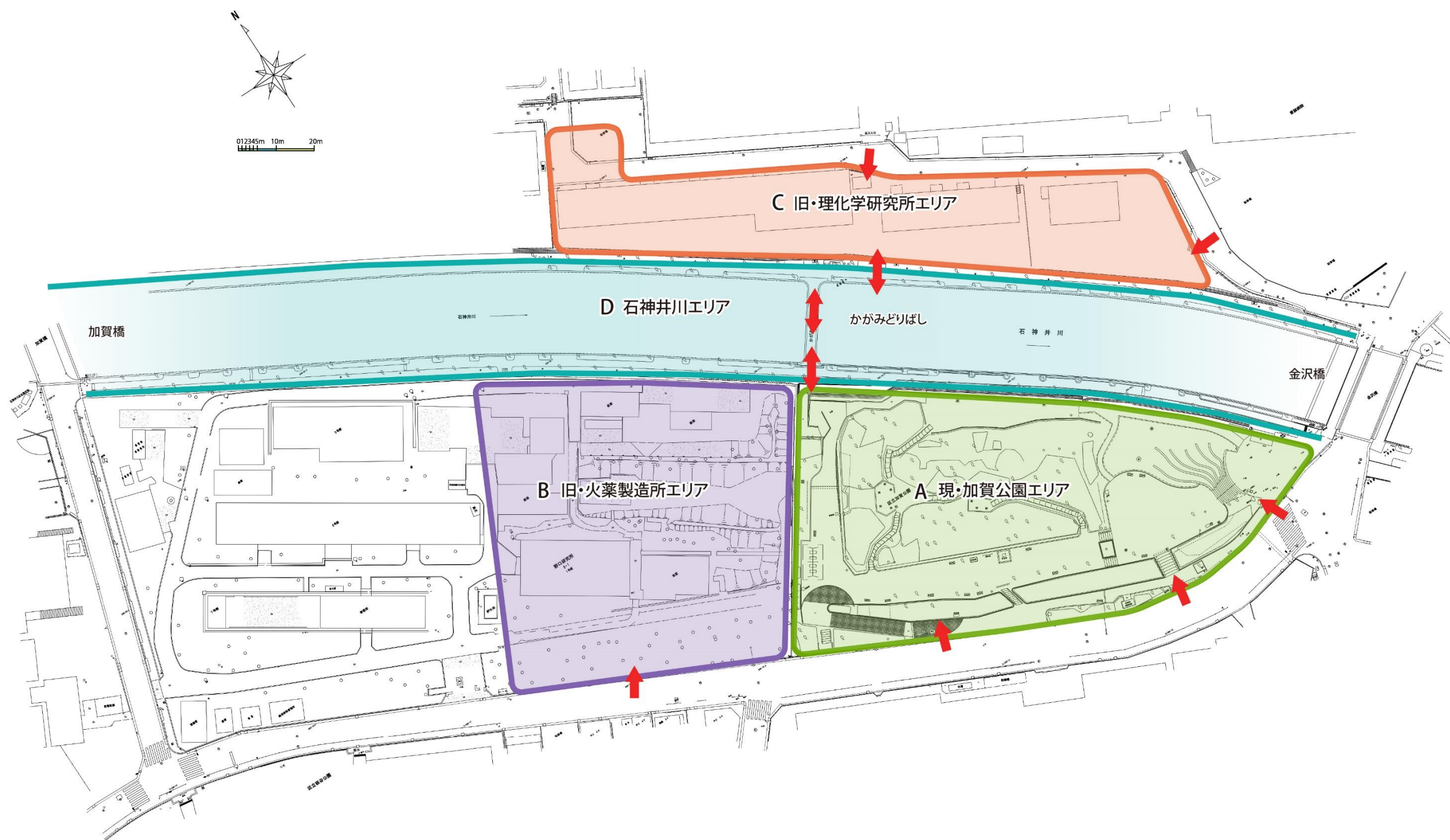
主な構成要素:石神井川・かがみどりばし・金沢橋・護岸・遊歩道・桜並木



石神井川と桜並木



新緑の桜とかがみどりばし



エリア区分図

第3章 史跡公園の将来像

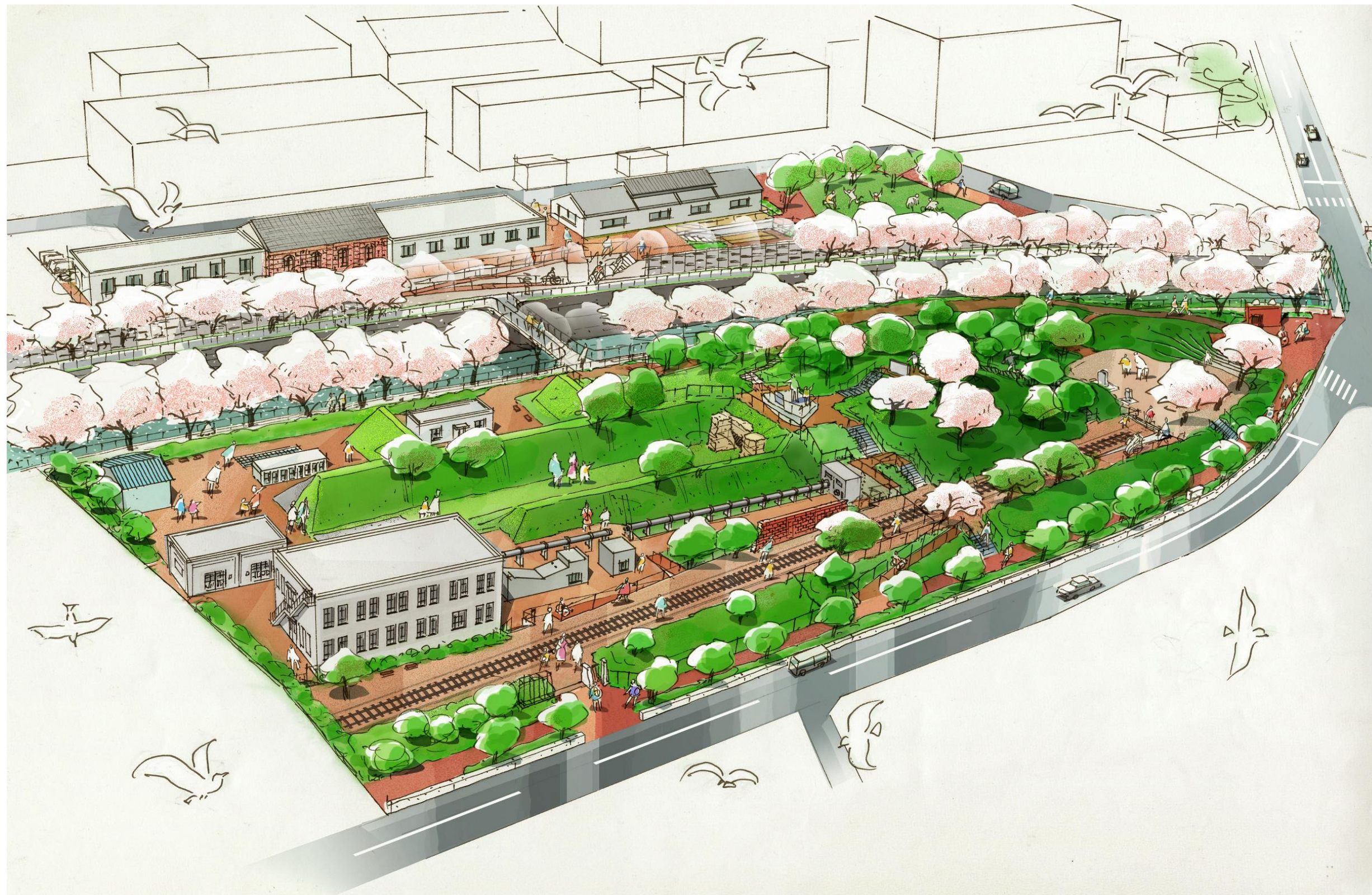
1. 整備の方向性

第2章における整備の基本的な考え方を踏まえて、基本方針である“憩う”・“学ぶ”・“創る”と整備予定地の特性を関連づけ、史跡公園整備の方向性を下記のとおり設定します。具体的な整備内容については今後の基本計画、利活用計画の策定時において検討し示していくとともに、その後の基本設計・実施設計に反映していきます。

	現・加賀公園エリア	旧・火薬製造所エリア	旧・理化学研究所エリア	石神井川エリア
▼				
“憩う”	<ul style="list-style-type: none"> 現・加賀公園エリアには桜が多数植樹されており、開花時には毎年多くの区民が訪れる安らぎの場となっています。また、起伏のある形状は子どもたちの遊び場としての機能もあり、史跡公園整備の際は、これらの現在の公園の特徴を継承していきます。 石神井川沿いには桜並木や遊歩道が整備されており、区民の散策コースとなっています。加賀公園をはじめとする各エリアとの動線や史跡公園の散策路など、整備予定地周辺を面的にとらえ一体的に検討し、区民に愛される憩いの場としていきます。 中山道板橋宿や加賀藩の下屋敷が置かれていた歴史的な価値を活かした情緒あふれる環境整備をめざしていきます。 訪れる方々が、周辺の各駅から史跡公園までの道すがら、商店街や関連史跡を楽しんでいただけるような動線を検討し、魅力の強化を図り、ひいては商店街振興など地域の活性化につながるよう広域的なまちづくりを整備していきます。 			
“学ぶ”	<ul style="list-style-type: none"> 旧・火薬製造所エリアを中心に、火薬研究、生産、試験、貯蔵保管施設など国内唯一の近代化・産業遺産の保存を中心に捉えながら、それらを展示することを通じて、板橋が日本の産業や科学技術の発展を支え、近代化に貢献してきた軌跡を学ぶ場とします。 現・加賀公園エリアはかつての加賀藩前田家の下屋敷が置かれていた場所であり、今でも築山跡が当時の面影を残している歴史的にも価値のあるエリアです。板橋区と金沢市との友好交流都市協定締結記念碑を活用しながら、金沢市との交流について紹介することで郷土史を学ぶ機会を創出していきます。 旧・理化学研究所エリアについては、明治から昭和にかけて設置された建造物をそのまま活用し、産業ミュージアムとして再生することにより子どもたちをはじめ区民の体験学習の場としての整備をめざします。 			
“創る”	<ul style="list-style-type: none"> 旧・理化学研究所エリアでは、かつてノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹、朝永振一郎両博士の研究室の再現と展示を通じて、区内産業発祥の地としての歴史や先進性を、臨場感を持って体験できるようにしていきます。 板橋の産業を支えるものづくり企業の技術や先進研究を紹介する場を設けるとともに、研究者や企業人の交流、利用者との対話を促すことで「ものづくりの板橋」としてのブランドの発信に繋げていきます。 地域、産業界、商業界、観光や文化団体等と連携し、区民に“愛される”・“再び訪れたいくなる”史跡公園を整備することで、地域振興、産業・商業振興へと繋げ、文化の風薫る新たな観光資源としていきます。 			

2. 整備イメージ

史跡公園の整備においては公園内の建造物群の保存、復元にとどまらず、景観保全や学習環境の整備、多様な地域資源との連携構築など、周辺地域も見据えた一体的な整備に取り組みます。史跡公園を取り囲む旧加賀藩下屋敷、中山道の宿場町として栄えた板橋宿を中心とする板橋地区、さらには区全域に好影響を及ぼし、将来的には区民にとって暮らし続けたいまち、来訪者にとっては、また訪れたいまちの実現に貢献することをめざします。



付属資料

板橋区史跡公園(仮称) 整備スケジュール

板橋区史跡公園(仮称) 来場者数の想定について

板橋区史跡公園(仮称)整備構想委員会 委員名簿

板橋区史跡公園(仮称)整備構想委員会 開催記録

付属資料 板橋区史跡公園(仮称) 整備スケジュール

	史跡公園整備スケジュール	旭化成マンション建設スケジュール
平成29年度	<p>■ 計画策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基本構想 ● 基本計画 ・区としての構想、計画を策定 	設計
平成30年度	<p>● 史跡保存整備利活用計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国史跡指定を踏まえ、文化庁等職員も参画し、計画を策定 ● 計画策定が31年度以降の補助金申請の根拠となる 	工事
平成31年度	<p>■ 基本設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建物整備 ● 公園整備 ● 展示設計 	完成
平成32年度	<p>■ 実施設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建物整備 ● 展示設計 	
平成33年度	<p>■ 整備工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建物 ● 展示 <p>■ 実施設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公園整備 	
平成34年度		
平成35年度		
平成36年度	グランドオープン	

付属資料 板橋区史跡公園(仮称) 来場者数の想定について

整備イメージを持つために、来場者数の想定をしたいとの意見があったため、参考となるデータを掲載します。

※平成22年度国勢調査、公益財団法人東京都公園協会『平成27年度事業報告書』、板橋区の調査等を参考に作成しました。

< 近隣および類似の公園利用者数 >

東板橋公園(約 25,100 m ²)	約 399,000 人(平成28年度)
旧古河庭園(北区、約 30,800 m ²)	約 283,100 人(平成27年度)
旧岩崎邸庭園(台東区、約 18,200 m ²)	約 228,800 人(平成27年度)

※旧古河庭園(国名勝)と旧岩崎邸庭園(国重要文化財)は、ともに近代洋風建築が保存・活用され、庭園が併設されている類似公園の事例です。

< 史跡整備予定地から半径 1 km の世帯数と昼間人口 >

世帯数	約 33,900 世帯
昼間人口	約 68,100 人

< 板橋区および近隣区の小学校第 6 学年の児童数 >

板橋区 3,600 人	北 区 1,900 人
豊島区 1,200 人	練馬区 5,400 人

※歴史に関する校外授業を行う学年として想定します。

< 観光ガイドツアー利用数 > (板橋エリア:旧中山道板橋宿)

125 件 約 1,500 人(平成28年度)

付属資料 板橋区史跡公園(仮称)整備構想委員会 委員名簿

委員長	田原 幸夫	京都工芸繊維大学大学院特任教授・ICOMOS 会員・ DOCOMOMO 会員(文化遺産保存活用デザイン)
副委員長	鈴木 淳	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部日本史学研究室教授 (近代化遺産産業史・史跡整備)
委員	鈴木 一義	国立科学博物館産業技術史資料情報センター長 (科学史・産業技術史)
委員	波多野 純	日本工業大学名誉教授・旧東京第二陸軍造兵廠火薬研究所 等近代化遺産群調査団長(建築史・保存修復・近代遺産群)
委員	小野 良平	立教大学観光学部観光学科教授 (造園・風景計画学)
委員	大森 整	理化学研究所主任研究員 (生産工学)
委員	斉藤 博	特定非営利活動法人日本都市文化再生支援センター理事長 (都市デザイン)
委員	小林 保男	板橋区文化団体連合会会長
委員	平塚 幸雄	板橋区町会連合会副会長
委員	安達 博一	一般社団法人板橋産業連合会板橋大山支部長
委員	萱場 晃一	板橋区商店街連合会副会長
委員	吉村 健正	東京商工会議所板橋支部会長
委員	深山 宏	板橋区観光協会会計担当・常任理事
委員	塚田 耕太郎	加賀まちづくり協議会副会長

専門部会 委員名簿

(1) 施設整備専門部会

部会長	鈴木 淳	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部日本史学研究室教授 (近代化遺産産業史・史跡整備)
委員	小野 良平	立教大学観光学部観光学科教授 (造園・風景計画学)
委員	斉藤 博	特定非営利活動法人日本都市文化再生支援センター理事長 (都市デザイン)

(2) 施設利活用専門部会

部会長	鈴木 一義	国立科学博物館産業技術史資料情報センター長 (科学史・産業技術史)
委員	大森 整	理化学研究所主任研究員 (生産工学)
委員	槌田 博文	チームオプト株式会社 代表取締役社長 (工学)

付属資料 板橋区史跡公園(仮称)整備構想委員会 開催記録

板橋区史跡公園(仮称)整備構想委員会[全体会議]

回数	開催日時	開催場所	内容
第1回委員会	平成28年11月18日(金) 10:00～	板橋区役所11階 第一委員会室	委員会の趣旨と公園整備の進め方、近代化遺産群の概要について意見交換
第2回委員会	平成29年1月23日(月) 15:00～	板橋区立東板橋 体育館 第1会議室	委員会スケジュール、整備の基本的考え方などについて意見交換
第3回委員会	平成29年4月25日(火) 14:00～	板橋区役所9階 大会議室 A	整備の基本的な考え方、基本構想案(素案)について意見交換
第4回委員会	平成29年7月14日(金) 10:30～	板橋区役所11階 第三委員会室	整備の基本的な考え方、基本構想案(素案)のまとめ

板橋区史跡公園(仮称)整備構想委員会[専門部会合同会議]

回数	開催日時	開催場所	内容
第1回施設整備専門部会・施設利活用専門部会	平成28年12月21日(水) 14:00～	板橋区役所北館 6階教育委員会室	専門部会の進め方、史跡公園予定地の状況説明、基本コンセプト・基本方針の考え方について意見交換
第2回施設整備専門部会・施設利活用専門部会	平成29年2月2日(木) 15:00～	板橋区役所北館 6階教育委員会室	史跡の構成要素、基本コンセプト・基本方針案について意見交換
第3回施設整備専門部会・施設利活用専門部会	平成29年3月27日(月) 14:00～	板橋区役所南館 4階災害対策室 A・B	整備の基本的な考え方の確認、整備構想ゾーニング・整備方針等について意見交換
第4回施設整備専門部会・施設利活用専門部会	平成29年6月13日(火) 10:00～	板橋区役所南館 6階教育支援センター	整備の基本的な考え方、基本構想案(素案)のまとめ